北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

私を育ててくれた岩見沢校(退職によせて)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚, 哲郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9362

退職によせて

私を育ててくれた岩見沢校

大　塚　哲　郎

私が生まれ故郷の大阪から、見も知らぬ北海道の岩見沢の地を踏んでから、早いもので42年の歳月が流れました。奇しくもマラソンの42キロと同じでひたすら走り続けた年月でした。振り返ってみるといろいろな出来事が走馬燈のように浮かび上がってきます。

私が赴任した当時の岩見沢校は、おんぼろの木造校舎が建ち並び、およそ大学らしからぬみすぼらしさで、暖房に石炭ストーブを使っていた時代でした。昭和39年に現在の本館が出来てようやく大学としての面目と体裁が整ったという状態でした。

私が40年以上も岩見沢校にいたというのは、この地が豪雪地帯であり、札幌に比べて如何に田舎であったとしても、北海道の風土、生活環境、人間関係などが私の性格や生活のリズムに合っていたのだと思います。若い頃には度々転勤の誘いもありましたが、それらを振り切っても惜しくない魅力のようなものが私を捉えていたのです。その魅力のひとつに、私の研究領域が「木材工芸」という特殊な分野であり、木工芸の実習室という「自分の城」を着々と造っていく楽しみがあったことと、若く元気の良い学生達を叱咤激励して彼らを育て上げていく楽しみがあったことも大きかったと思います。

30才の時に「教育玩具」をデザインコンクールに出品応募して、グランプリの通産大臣賞を授賞しました。これで自信がつき、人はどこにいても良い仕事をすれば認められるということを確認しました。

その後、「木組の造形」に取り組みはじめ、まだ誰も手の付けていない「木組み構造を現代造形の美に再構成する」ことに挑戦してきました。

「木組み構造」は日本の伝統的な古代建築の中に多く見られ、特に正倉院の校倉造りのダイナミックな木組み構造、桂離宮の軽快・簡素な数奇屋風書院づくりの空間構成、飛騨高山の日下部邸の豪壮な梁の構成などには誰しも魅了されることでしょう。

私が岩見沢校の工芸室で産み出した数々の木組み作品を、東京都美術館で毎年開催される「モダンアート協会展」に発表して高い評価を受けた時には、辺地にいるハンデキャップを克服した快感がありました。

研究活動の傍ら大学運営にも携わり、自分の苦手とする役職である代議員、将来計画委員長、入試委員長、カリキュラム委員長、人事計画委員長も無事務めました。

その中でも、十年前の阪神大震災の時に、私が入試委員長を務めており、本部に緊急招集されて二次試験の対応策について意見を求められ、いろいろ大変だったことが今でも記憶に残っています。

大学の激動の時に退職するというのは自分にとっては幸せですが、後輩の先生方には本当にご苦労さまと言うしかありません。岩見沢校にも何度か改革の波が降りかかってきましたが、これ程大きな波は初めてのことでしょう。

先生方にはこの激動にめげず、それぞれの研究活動を一層深めていただきたいと祈念します。

私が長い年月お世話になった岩見沢校の教職員の方々、そして卒業生や学生達にも深く感謝いたします。